

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		稲城市発達支援センター分室 レスポーいなぎ大丸		公表日 2025年2月3日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12	1	20名定員の現在においては、発達段階に合わせてグルーピングをして二つお部屋に分けて行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11	2	配置数は利用定員や子どもの利用数を把握して、配置しているように感じる。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11	2	その時の子どもの様子に合わせて、ロッカーの位置を変更するなど構造化をしている。クラスによって棚の配置を工夫し、過ごす場所を分かりやすくしている。	床が凸凹してきており、子どもの転倒やつまずきなどの危険があるため障害福祉課と協議の上で修繕を進めています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	3	活動内容に合わせて、ロッカーの位置変更し、空間を広くとるなど行っている。保育室内の清掃業者に委託し、療育後に清掃してもらっている。子どもが遊ぶエリアはマットを敷いて対応している。	湿気が多く部屋によってはカビの匂いがするため、換気をこまめにし、カビの状況を障害福祉課に報告し改善に努めています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	13		その時の子どもの様子を見て、個別の空間が必要であると判断した場合は、他児やスタッフ配置を確認して個別スペースで過ごせるよう対応している。子どもが落ち着いて過ごすことが出来るよう、子どもの状態に合わせて個室で過ごすことや部屋を分けて過ごせるようにしている。	子どもの状況に合わせて別室を使用することもあるが、環境は整っていても人員配置としては部屋の活用が難しいこともあります。次年度は実習生の受け入れを増やすことで子どもの状況に合わせた活動がより提供できるようにしていきます。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	13		新規立ち上げのため、試行錯誤を繰り返しながら業務改善を行っている。自分が出勤していない間の子どもたちの様子や対峙している課題、支援方法などを記録で確認したり、出勤日の療育前に確認したりするよう努めている。運営会議では挙げた課題が改善できるように話し合うことがある。毎日、申し送りがしっかりしていて課題を共有していると感じる。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12	1	年2回の保護者会での意見やオンブズマンを通しての保護者からの意見をもとに、挙げてきた意見は職員間で話し合い改善するように努めている。面談記録や保護者会の記録に目を通し、そこから得た情報を意識して支援にあたるよう努めている。開所初年度なのでこれからではあるが保護者向け評価表での意向を運営会議で把握し改善点を話し合う予定である。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		クラス会議や療育前後に、疑問点などは確認するよう努めている。運営会議や個別に意見があがったものはその都度改善していけるようにしている。予算がかかるものは意見を聞き、市に報告している。入職後はOJTを受け、仕事の振り返りがまめにできている。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		稲城市発達支援センター分室 レスポーいなぎ大丸		公表日 2025年2月3日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
業務改善	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	11	2	オンブズマンによるSV、大学教授によるSVを定期的に行っており、助言をもとに支援の改善に努めている。 3年に1度の頻度で第三者評価を実施予定であり、令和8年度に実施する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12	1	毎月、虐待防止研修や不審者対応など事業所内研修を実施している。 法人内のイーランニングを使用して各自で学習をすすめている。 法人内でも全体法人会議や児童分野研修を年に2回ずつ実施している。 法人内実務者研修も積極的に活用している。	「非常勤スタッフも資質向上のために、研修等に参加できる環境があると良い。常勤と非常勤の間に隔りを感じる時がある。」という意見がありました。今後も非常勤職員・常勤職員が研修に参加できるよう必要な研修を実施していきます。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12	1	1日グループは月案を提示し、日々の活動とそのねらいを伝えている。 支援プログラムは2月に公表予定である。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	13		法人内のアセスメントシートを使用し5領域10項目の内容で実施をしている。 法人独自のアセスメント表や発達検査の結果に基づいてアセスメントしている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	13		モニタリング会議を定期的実施している。 児童発達支援管理責任者と担当で【現在の様子】【今後の支援】について話し合いを行い、支援の方針を決めている。 日々の振り返りの中でお子さんの支援について検討をしている。 作成された支援計画を確認し、疑問点などあれば確認して支援にあたるよう努めている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13		個別支援計画を作成した時にはグループスタッフに周知をし、クラス間で個別支援計画の内容を共有している。 常に話し合う姿勢がある。 計画に沿った支援を行い、支援が変わる場合は話し合いが持たれている。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	13		新版K式発達検査・WISC-IV・感覚プロファイルなどの標準化されたツールを用いたフォーマルアセスメントを行っている。 法人独自のアセスメント表を使用している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12	1	子どもたちの課題を確認しながら、活動プログラムを考える時間を作っている。 担当が立案することが多いが活動の目的や流れは事前に共有している。 立案内容を文書で共有している。 月一回、クラス間で話し合いの場を設けている。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 稲城市発達支援センター分室 レスポーいなぎ大丸

公表日 2025年2月3日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13		同じ活動を実施する中でも、前回のお子さんの様子を踏まえて工夫をしたり、新しい活動を取り入れている。 繰り返し同じ活動を行うことで主体的な参加につながる場合もあるため、繰り返し同じ活動を行いつつもお子さんの様子に合わせて変化を加えたり、新しい活動を提供したりしている。	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12	1	お子さんや活動内容に合わせて柔軟に組み合わせるようにしている。 個別療育とグループ療育を利用している場合はそれぞれ支援計画を作成している。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12	1	法人の会議や、送迎の都合・出勤時間の都合により実施出来ない時もあるが、その際には前日に周知することで補っている。 前日または当日朝に確認を行っている。当日の朝十分に時間が取れない場合には、前日までに共有するようにしている。 十分に話し合いの時間が設けられないことはあるがその場合はチャットワークで伝達し共有できるようにしている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	12	1	会議や、送迎の都合・出勤時間の都合により実施出来ない時もあるが、その際には記録を残して周知出来るようにしている 振り返り内容は情報共有アプリで共有し、全員に素早く情報が共有できるようにしている。 活動内容とお子さんの様子を振り返るようにしている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13		インシデントアクシデントは月ごとに集計を取り、支援の改善につなげていけるように発信している。 支援の振り返りをして、改善の努力をしている。	
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13		児童発達支援管理責任者と個別療育担当者間でモニタリングを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13		障害児相談支援事業所がモニタリングで見学に来られた時はお子さんの状態像や活動の狙いを伝えている。 対象のお子さんに関わる支援者から直接話を聞き取りしている。	
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	13		必要に応じて幼稚園や保育園に訪問し、利用児の様子を確認し、情報共有を行っている。 協力医療機関の医師が嘱託医のためその都度情報交換している。	
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12	1	並行利用児は必要に応じて幼稚園・保育園に訪問し、支援内容を情報共有している。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		稲城市発達支援センター分室 レスポーいなぎ大丸				公表日	2025年2月3日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
関係機関や保護者との連携	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13		保護者のニーズに応じて、情報提供書を作成している。 入学後に特別支援学校の先生が来所され、その際に支援内容の情報共有を行っている。 就学支援シートの協力を積極的に行っている。		
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	11	2	自立支援協議会こども部会に参加している。		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	13		オンブズマンや心理の専門家によるSVの実施、外部研修への参加をしている。 スーパーバイザーやオンブズマンからのアドバイスを年に数回受けている。		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	11	2	自立支援協議会こども部会に参加している。		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6	7	地域の公園で地域の住民や子どもに会った時には積極的に挨拶を行うことや、「お友達いたね」など声かけを行うことで意識するような声かけをしている。 地域の子どもに関するイベント情報の共有をしているが、実際に交流・活動する機会はないように思う。 同じ建物内にある事業所の子どもが見学参加したり、一緒に避難訓練したことがある。	地域の中で他の子どもと活動する機会がほとんどありません。地域のお子様との交流が図れるようにイベントの開催を検討いたします。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13		連絡帳や送迎時にやりとりすることに加え、ICTツールにて写真を共有し、具体的なイメージやご様子が伝わるようにしてる。 保護者交流会・オリエンテーションを実施し、交流を図る機会を設けている。		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	12	1	年に2回、保護者勉強会を実施している。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12	1	活動の実費負担の利用料が発生するときは前日連絡、事後は負担額連絡帳に記載している利用開始時に説明している。		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13		個別支援計画を行う際には支援フォームを配布し希望を確認している。 保護者に記入していただく支援フォームを活用し保護者の希望を伺っている。		
保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	12	1	年2回、面談を設定し支援計画の説明を行っている。		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12	1	個別療育時・2歳児親子クラスにその都度相談に応じている。その他、希望面談も実施している。		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		稲城市発達支援センター分室 レスポーいなぎ大丸		公表日 2025年2月3日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10	3	年2回保護者交流会を開催、ミカン狩りや親子ピクニックなど保護者も一緒に参加できるイベントを企画し顔を合わせる機会を設けている。行事にきょうだい児も参加可能としている。普段合わない保護者の方の交流の機会となっている。 保護者交流会では家庭での様子や困りごと等をテーマとして交流を図る機会がある。	次年度に向けて土曜日の園庭開放を検討します。 保護者同士の交流の機会がより増えるよう保護者が集まるイベントも定期的に開催できるよう準備を進めていきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12	1		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	12	1	1日グループ療育は月案を作成している。クラスの様子を連絡ツールアプリで発信している。 法人では正夢通信の配布とSNSを実施している。 連絡ツールアプリを活用し、地域のイベント情報を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13		多数の方が利用する玄関や廊下には個人情報が分かるものは置かないようにしている。バス車内も個人名を載せないようにしている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13		活動内容を自分で伝えることが難しい子どももいるため連絡帳や連絡ツールアプリを使用して活動内容や子どもの様子を発信している。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	7	随時見学に対応を行っている。 センターが選挙会場になっている。	地域の中で他の子どもと活動する機会がほとんどありません。地域のお子様との交流が図れるようにイベントの開催を検討いたします。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12	1	現在作成中のものもあり、施設内で検討や実施をしている。 運営会議やチャットワークを活用して各マニュアルを周知している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12	1	定期的な避難訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12	1	定期的に避難訓練を行っている。10月は火事を想定し、消防署と障害福祉課、管理会社、隣の施設と合同避難訓練を実施した。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10	3	食物アレルギーのある方の情報を配膳室に掲示している。 現在対応が必要な子どもはいないが、マニュアルを作成し職員間で周知している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12	1	必要に応じて点検し直し、より安全な環境になるよう努めている。 安全計画に基づいて各マニュアルを作成している。	
50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	3	後期オリエンテーションでは安全計画と取組内容を周知している。	安全計画と取組内容について家族等の周知が十分ではないため、連絡ツールアプリにて周知を図ってまいります。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 稲城市発達支援センター分室 レスポーいなぎ大丸

公表日 2025年2月3日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
非常時等の対応	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13		怪我が発生した場合は、早急に再発防止策を検討・実施している。 夕礼でインシデントアクシデントを報告し、月ごとに集計した書類をスタッフに回覧している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12	1	小さな出来事研修を実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	13		姿勢保持のための保持椅子のベルトを使用する場合は保護者に同意を得ている。使用時間を決めた上で支援計画に記載している。 身体拘束についての話し合いを実施している。	